

ソフトバンク・テクノロジー株式会社

# 第2四半期株主通信

2014.4.1—2014.9.30



SoftBank  
Technology

# FINANCIAL HIGHLIGHT

## 決算ハイライト

- 連結売上高は196億7千8百万円（前年同期比+20.8%）となり、上半期売上高として過去最高値を更新。
- シマンテックストアビジネスの退潮傾向は継続するも注力事業と位置付けた「データアナリティクス」「セキュリティソリューション」「マイクロソフトソリューション」が着実に成長し、増収、増益に貢献。
- 自社コンテンツやサービスを展開する子会社が利益率向上を牽引し、当第2四半期（7-9月）の連結限界利益率は28.8%（前年同期比+4%）を達成。

### サービス別概況

当社は「ICTサービス事業」の単一セグメントに変更しました。当事業を構成する主要なサービスの概況は以下のとおりです。

#### デジタルマーケティング

売上高 9,366百万円

限界利益 1,342百万円

シマンテックストア売上高が減少も、データ解析事業においてウェブアクセス解析ツールの契約社数の増加とフォントワークス(株)と(株)環の子会社化により増収。

注力事業 データアナリティクス

#### プラットフォームソリューション

売上高 6,153百万円

限界利益 1,979百万円

法人企業向けのシンククライアント等のIT基盤構築や運用・保守サービスが好調に推移。さらにサイバートラスト(株)とミラクル・リナックス(株)の子会社化により増収増益。

注力事業 セキュリティソリューション

#### システムインテグレーション

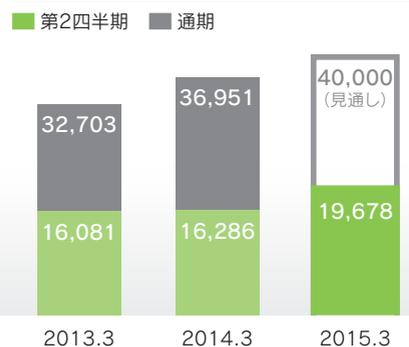
売上高 4,158百万円

限界利益 1,779百万円

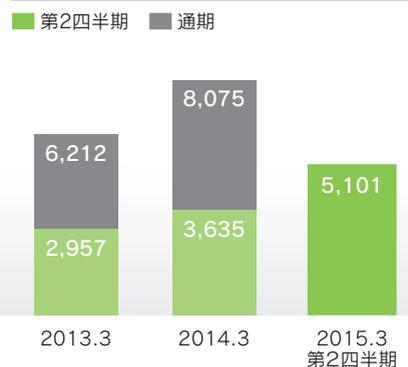
プロジェクトの大型化や契約社数の増加などにより、事業全体で増収。システムインテグレーション事業とマイクロソフトソリューション事業が牽引し増益。

注力事業 マイクロソフトソリューション

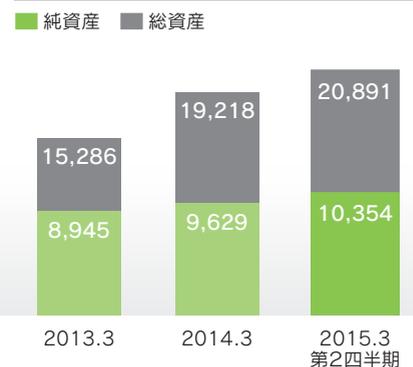
#### 売上高 (百万円)



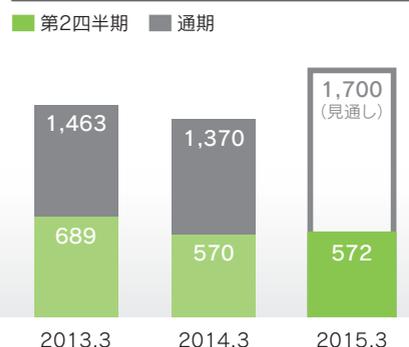
#### 限界利益 (百万円)



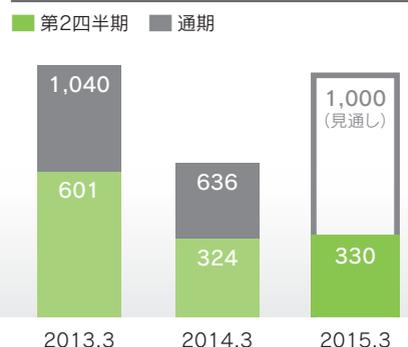
#### 純資産/総資産 (百万円)



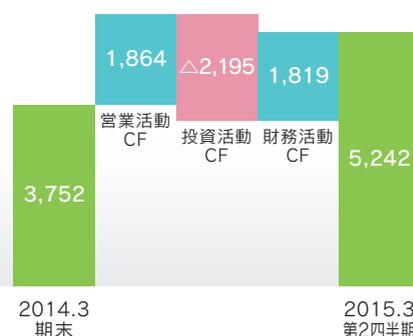
#### 営業利益 (百万円)



#### 四半期(当期)純利益 (百万円)



#### キャッシュ・フローの状況 (百万円)



# TOP MESSAGE

トップメッセージ

## 事業拡大を 目指した2年間 を振り返って



代表取締役社長CEO 阿多 親市

### Q1 大きな成長への具体的な 施策を教えてください。

社長就任時に「会社を大きく成長させる」という目標を掲げ、新規事業の開発、社員の積極採用と技術力の向上、機能別組織への変更、M&A施策などにより成長戦略を推進してまいりました。まず社員の積極採用についてですが、就任当初のグループ社員数は約420名で、成長著しいソフトバンクグループに寄与するためには、組織の規模、技術ともにさらなる強化が必要でした。そこで、最先端のスキルを持つ人材を大量に採用し、高度技術資格取得を推進した結果、いくつかの領域で外部表彰をいただくなど成長に向けた基盤が整ってまいりました。現在は社員数が800名を超え、徐々にソフトバンクグループの通信事業をサポートできるようになっています。

次に人事・給与制度を全て見直し、機能別組織へ変更いたしました。就任以前は事業部が20以上あり、大きい事業部も小さい事業部も、それぞれが採算を取らなければならなかったため、投資や人員のアサインなどが硬直しがちで非効率な面がありました。そこで事業部制を廃止し、開発・運用保守・営業・管理という機能別組織に変え、「One! SBT」のスローガンのもと、ひとつのSBT※1として仕事を捉えられる効率的な組織構造にしました。優秀な若手も積極的に登用し、執行役員制、本部制の導入など1,000名規模の体制を視野に入れ経営しております。これに関連して、円滑なコミュニケーションを生む環境づくりを念頭に本社を移転しました。役職も組織の壁も意識させない広くフラットなワンフロアとし、コミュニケーションを促進させるオープンな打ち合わせスペースを充実させるなど、社員が力を発揮しやすい会社を目指しています。

M&Aについては、No1技術やコンテンツを持つ企業を選んでまいりました。一例を挙げると、今後IoT※2市場で活躍

# 成長に向けた基盤が整ってきたことを実感

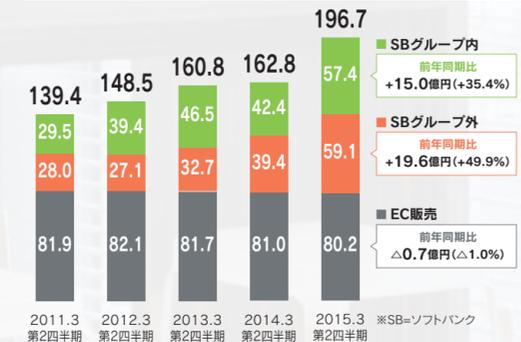
### Q2 今までの活動で得た 成長戦略の手応え はいかがでしたか？

組織拡大と高度技術資格取得推進による効果で、ソフトバンクグループ向けの通信事業の業務支援に参画いたしました。ソフトバンクグループの通信事業の情報システム部門はパートナーを含めて3,000名体制で運営する規模の組織ですが、競合に競り勝つことでビジネスが生まれ、就任前に上期29億円、通期67億円程度だったグループ向け売上高が約2倍の通期122億円まで増えました。2015年3月期上期は57億円でその勢いは続いており、伸びしろがあると考えております。

また、最先端の通信事業の協業で得たノウハウ・経験を活かし、新たなグループ外顧客にビジネスを展開できるようになりました。具体的には、企業のクラウド環境導入を支援するマイクロソフトソリューションが好調です。メールシステムをクラウド化する「Office 365」の導入支援で実績を上げ、前年同期比で3倍近い伸び率となり、単体売上高の1割近くまで成長しました。当社は日本でいち早く「Office 365」を社内導入しましたので、その経験を活かした提案を高く評価いただいています。加えて、官公庁向けの大型案件も受注するなど、土台ができてきたことに手応えを感じています。

### ソフトバンクグループ内外の顧客が増加

第2四半期顧客別売上高 (億円)

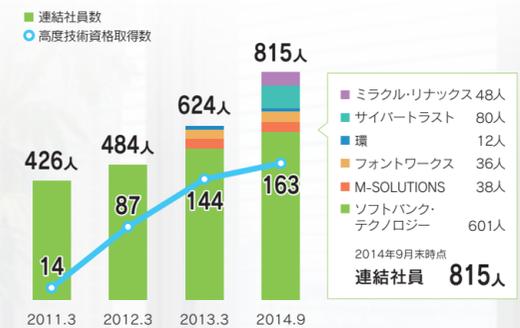


するデバイスにミラクル・リナックス株式会社のLinux技術を活用し、セキュリティをサイバートラスト株式会社が、ウェブフォントをフォントワークス株式会社が担うという具合に、「組込み分野」に対応します。他にも、モバイル関連サービス開発のM-SOLUTIONS株式会社や、ウェブ解析のオリジナルツールを持つ株式会社環が加わり、マーケティング施策では株式会社モードツと有効に連携しています。

※1 SBT: ソフトバンク・テクノロジー  
※2 IoT: Internet of Things (モノのインターネット) の略。世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネット接続や相互通信することで、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。位置情報をリアルタイムに集約・情報配信するシステムや、機器にセンサーと通信機能を内蔵して稼働状況や故障箇所をリアルタイムに把握できるシステムなどが考案されている。

### 積極採用と高度技術資格取得の推進で 技術者リソースを増強

連結社員数・高度技術資格取得数の推移



### No1の技術やコンテンツを持つ企業とM&A

会社名	目的
2001/04 M-SOLUTIONS (株) (連結子会社)	モバイルアプリケーションなどモバイル動画配信サービスの拡充のため
2013/06 フォントワークス (株) (連結子会社)	デジタルフォント市場におけるシェアが高いため
2013/06 (株) 環 (連結子会社)	ウェブ解析ツール「シビラ」の技術力ウェブ解析士認定講座に参画
2014/04 サイバートラスト (株) (連結子会社)	DeviceIDなど端末認証セキュリティをIoT市場に展開していくため
2014/05 (株) モードツ (持分法適用関連会社)	オムニチャネルマーケティングのため広告・販売促進で協業していくため
2014/07 ミラクル・リナックス (株) (連結子会社)	IoT市場の活性化で活躍が見込まれる組込みLinuxの経験が豊富

### Q3 今現在、注力している 事業とその展望を 教えてください。

3つの成長ドライバーで事業拡大を目指します。1つめはデータアナリティクスです。大きな発展が期待されるビッグデータ市場で活躍するソリューション展開に挑戦しています。当社には有能なデータサイエンティストもおり、中長期的な視野で、リアルやウェブなどあらゆるチャネルから得たデータをマーケティング戦略に繋げるシェアードサービスを目指します。

2つめはセキュリティソリューションです。IoTの進展とともに課題となるセキュリティ分野に、最適なサービスを提供します。IoTの実現でシェア拡大が期待される、組込みLinux OSも合わせて積極展開してまいります。

3つめはマイクロソフトソリューションです。企業のIT基盤のクラウド環境への移行・導入を支援し、コミュニケーション関連のシステム導入から、基幹システムまでの展開を目指すステップを考えています。

### 3つの成長ドライバー

デジタルマーケティング

プラットフォームソリューション

システムインテグレーション

ECサービス

注力  
データアナリティクス

注力  
プラットフォームソリューション

注力  
セキュリティソリューション

システムインテグレーション

注力  
マイクロソフトソリューション

### Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は株主の皆様への利益還元も経営の重要テーマです。私が社長就任時にお約束した「会社を大きく成長させる」という目標を必ず達成し、中長期的な企業価値・株式価値の向上と安定的な配当を通して、株主の皆様へ還元をさせていただく方針です。

今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 会社概要

(2014年9月30日現在)

商号	ソフトバンク・テクノロジー株式会社
本店所在地	東京都新宿区新宿六丁目27番30号
事業所	新宿オフィス(本社)、汐留オフィス、 汐留開発ベース、大阪支社、名古屋オフィス、 福岡支社、福岡開発センター、台湾支店
事業内容	ICTサービス事業
ホームページ	<a href="http://www.softbanktech.co.jp/">http://www.softbanktech.co.jp/</a>
資本金	639百万円
従業員数	連結815名 単独601名
主な子会社	M-SOLUTIONS株式会社 フォントワークス株式会社 株式会社環 サイバートラスト株式会社 ミラクル・リナックス株式会社

## 役員

(2014年9月30日現在)

代表取締役社長 CEO	阿多 親市	常勤監査役※	廣瀬 治彦
取締役	長田 隆明	監査役※	佐野 光生
取締役	青木 克志	監査役※	中野 通明
取締役	佐藤 光浩	監査役※	三村 一平
取締役	後藤 行正		
取締役	吉田 剛		
取締役※	三木 雄信		

※社外取締役、社外監査役

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL.0120-288-324(フリーダイヤル)
上場取引所	東証第一部(コード番号 4726)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による掲載ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 <a href="http://www.softbanktech.co.jp/">http://www.softbanktech.co.jp/</a>

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。(特別口座管理機関 連絡先) 三菱UFJ信託銀行 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL.0120-232-711(フリーダイヤル)
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店、みずほ銀行本支店およびみずほ証券本支店でお受けいたします。

## ソフトバンク・テクノロジー 株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号

新宿イーストサイドスクエア 17階

TEL 03-6892-3050 (代表)

URL <http://www.softbanktech.co.jp/>

お問い合わせ先 管理統括 管理本部 経営企画部

MAIL [sbt-ir@tech.softbank.co.jp](mailto:sbt-ir@tech.softbank.co.jp)

## 株式の状況

(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	42,560,800株
発行済株式の総数	10,649,100株
株主数	4,323名

## 大株主

(2014年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ソフトバンク株式会社	5,367,500	55.41%
ザバンク オブ ニューヨーク ージャスディック トリーティアー アカウント	300,600	3.10%
シービーエヌワイ チャールズ シュワツプ エフビーオー カスタマー	211,700	2.19%
ビービーエイチ フォー ファイデリティ ロー プ ライズ ストック ファンド (プリンシパル オ ール セクター サポートフォリオ)	185,300	1.91%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	172,700	1.78%

※持株比率は、自己株式(961,890株)を控除して計算しています。

※ダルトン・インベストメンツ・エルエルシーから、2014年7月3日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、同社が当社株式850,100株を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として当第2四半期会計期間末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

## 所有者別持株比率

(2014年9月30日現在)



## VOICE 編集後記

株主の皆様、いつも株主通信をご愛読いただきありがとうございます。今回は大きな成長に向けたこれまでの取り組みを社長の阿多からお話ししました。株主通信では、数字やデータだけではわからない当社の魅力をわかりやすく伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

経営企画部  
阿多親市経営企画部  
皆口朋美経営企画部  
岸啓介経営企画部  
黒田優子

※記載されている会社名、ロゴ、製品名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright© SoftBank Technology Corp. All Rights Reserved